

## 会議録

会議の名称	令和6年度 第2回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会		
開催日時	令和6年10月4日(金) 午後2時から午後3時30分まで		
開催場所	加東市役所 3階 301会議室		
議長の氏名(会長 梅野 巨利)			
出席委員の氏名			
〈出席委員〉			
・梅野 巨利 ・三ツ井 英春 ・小林 邦子 ・鷹尾 正彦			
・藤井 博之 ・山上 実佳 ・村上 加奈子 ・肥田 繁樹			
〈欠席委員〉			
・柿本 靖史 ・吉田 伊佐見			
出席した事務局職員の氏名及びその職			
・上下水道部長 小坂 征幸			
・上下水道部管理課長 阿江 英俊			
・上下水道部管理課副課長 遠藤 祐希			
・上下水道部管理課主査 藤井 小夜			
・上下水道部工務課長 西角 昌記			
・上下水道部工務課副課長 荻野 克弥			
・上下水道部管理課主事 西角 洋人			
傍聴者 なし			
1 協議事項			
(1) 「加東市水道事業新ビジョン・経営戦略(仮)」(案)の中間報告について			
(2) 「加東市下水道事業新ビジョン・経営戦略(仮)」(案)の中間報告について			
2 会議資料			
(1) 次第、参加者名簿、配席図			
(2) 資料1「加東市水道事業新ビジョン・経営戦略(仮)」について			
(3) 資料2「加東市下水道事業新ビジョン・経営戦略(仮)」について			
(4) 別紙「冊子題名案(水道・下水道)」			
3 会議の経過			
⇒別紙「令和6年度第2回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会・会議の経過」のとおり			
令和6年11月25日			
会長 梅野 巨利			
審議会委員 三ツ井 英春			

(別紙) 令和6年度 第2回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
	<p>1 開会 事務局より定足数の確認を行い、本運営審議会が成立することを報告した。</p> <p>2 会長挨拶 会長より開会の挨拶。</p> <p>3 協議事項 (1) 「加東市水道事業新ビジョン・経営戦略(仮)」(案) 中間報告について事務局より資料1について説明を行い、その後に質疑応答を行った。</p>
委員	<p>最終的に、ビジョンと経営戦略は、この資料のように、水道の「ビジョン経営戦略」・下水道の「ビジョン経営戦略」というようにそれぞれ1冊に統合されるのか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>
委員	<p>2種類の冊子を統合する目的・理由は何か。国からの指針があったのか。</p>
事務局	<p>国の指針ではない。国は、事業の基本的な目標であるビジョン策定については特に指示していないが、事業を実施するにあたっての、より具体的な、数値化された計画について「経営戦略」として策定するよう求めている。また国は、経営戦略については様式に制約を設けず、内容が基準を満たしていればよいとしている。</p> <p>そのような状況下で、加東市では、重複する内容を含む2種類の冊子を統合し、より分かりやすいものとするため、また経営戦略の見直し時期とも合わせて、1冊の「ビジョン経営戦略」とする考えである。</p>
委員	<p>p81の財政シミュレーションについて、給水原価が令和10年度以降毎年5円のペースで上昇しているが、事業経営に問題はないのか。それとも、何か戦略的な意図があって、計画的にそうなるように仕向けているのか。</p>
事務局	<p>給水原価の上昇は、主に物価や人件費の上昇率見込みによるもの。 昨今の物価上昇率も考慮した上で、今後の見通しを立て、料金改定率を算出する必要があるため、シミュレーションに組み込んでいる。</p>
委員	<p>同じく財政シミュレーションについて、経営指標の企業債残高が、かなり大きな値になっているが、もう少し緩和されないのか。</p>
事務局	<p>この財政シミュレーションの試算方法は、資金残高の目安を定めており、目安額を確保できるように企業債の借入額を設定する、という仕組みにしている。 企業債の新規借入れを抑えようとするなら、シミュレーションに設定している「資金残高の目安額」を再検討する必要がある。</p>
委員	<p>国は地方公営企業の経営指標について、「料金回収率100%達成」を要求しており、資金残高もいいが、このことを目指すべきかと思う。 今回のシミュレーションでは、令和10年に料金改定を行っても、以降の料金回収率に100%未満の値が見られるため、検討は必要であろうと思う。</p>
委員	<p>p81の財政シミュレーションの値と、p50のグラフとの整合が取れていないのではないのか</p>

事務局	<p>3章のグラフは料金改定などの経営改善の取り組みを前提としていない、現状維持の試算結果を示したもので、一方5章のシミュレーションは、経営改善の取り組みを取り入れ収支均衡を図った場合の結果を示している。</p> <p>文面からそれが伝わるよう、修正させていただく。</p> <p>(2) 「加東市下水道事業新ビジョン・経営戦略(仮)」(案)中間報告について事務局より資料2について説明を行い、その後に質疑応答を行った。</p>
委員	<p>5章の財政シミュレーションを見ると、下水の収支は3条4条とも赤が続いており、また他会計補助金の収入も令和10年で終了するようだが、下水道使用料は値上げする必要はないのか。</p>
事務局	<p>下水道事業の使用料改定見込みについては、昨年度審議会での報告より変動はない。</p> <p>処理場統合整備事業の終了後は、ストックマネジメント計画に基づいた事業投資を行えば、企業債残高は減額が見込まれ、また処理場統合の成果として維持管理費や資本費の減少も見込まれる。それに対して、収入の減少は現状さほど進んではおらず、結果として本計画期間中の収支は、料金改定をせずとも均衡状態に向かう見込みである。</p> <p>また、今までは基準外繰入金をもらっていたが、処理場統合事業が終わるR10・11年ごろ以降は、基準外繰入なしで、一般会計に依存しない財政となる見込みである。</p>
委員	<p>資本的収支では毎年億単位の赤字となっているが、広報では3条収支の結果しか記載されておらず、工事費の需要が多いことが市民につたわらないのではないかと。</p> <p>将来的に、使用料改定が必要となることを見越すのであれば、市民の理解を得るため、4条収支を広報に掲載するなど、建設改良費がいかに高額であるかを示していった方がよいのではないかと。</p>
事務局	<p>市民への周知が必要という点は、ご指摘の通りである。</p> <p>広報紙面を割いた周知、イベントなど、現在も取り組みを行っているが、引き続き様々な手法での広報を検討していきたい。</p> <p>4 その他 事務局より3点の連絡事項 (1) 冊子のタイトル案について (2) 意見書の提出について依頼 (3) 次回審議会開催日の事前通知</p> <p>5 閉会</p>